



〈8〉

「デジタル化の前に『文章力』を鍛えるべきだ」。新聞記者OBで現役時代は新聞のデジタル化に取り組んできた坪田知己さん(63)は、定年退職後、各地で文章講座を開いて、ネットの文章の「共感度」を上げる取り組みをしている。

2011年初め、テレビ局のディレクターから「文章の書き方を学校で教えないのは日本だけ」という話を聞き、経験を生かして「文章術」を開発しようと考えたという。

12年2月、東京都杉並区で商店街の活性化に取り組み育児休暇中のママのグループ

「心の声」が伝わったのだ。杉並区が補助金を出し、11月には「和田商店街ウェブサイト」が開設された。目玉は商店の紹介記事だ。

4月からは、横浜・大倉山の街カフェ「ミエル」でも文章講座を開いている。「大倉山おへそ」というホームページがスタートし、商店の紹介をアップする計画だ。また京都・宇治の地域SNS「お茶っ人」のメ



和田商店街ウェブサイト



記者OBが地域興しに奮闘

文章講座でリポーター養成

店主の商品へのこだわり、お客への思いやり、市民活動のグループにも伝わる、チラシやフリーペーパーでは分からなかった

ンバー、神奈川・茅ヶ崎の時代にフィットした「明快・簡潔、共感される、リズム感がある」が「坪田流文章術」のキモだ。

ら招請されている。

坪田さんは「ITは手段。心が伝わらなければ、宝の持ち腐れ」という。ネット

「和田商店街ウェブサイト」

岡山市内で暮らす母親(88)を遠距離介護しながら全国の駆け巡る坪田さん。内閣府の地域活性化伝



文章講座を開く横浜市の街カフェ「ミエル」で世話人を務めるオーナーと打ち合わせする坪田知己さん(右)